



11月の生活目標



- ◆ 早く家に帰ろう。
 - ・みちくさをしない。
 - ・友だちといっしょに帰る。
 - ・下校時間（4時20分）を守ります。

英語の授業研究会を実施

10月30日(月)に、英語教育アドバイザー教員（EAT）：猿口和口先生（北小併任）の来校に合わせて、英語活動及び“英語科”の授業公開と授業研究会を実施しました。4年の英語活動と6年の“英語科”で、EATの猿口先生が示範授業を行うとともに、3・4・5年の担任がそれぞれ授業を公開し、放課後の授業研究会では、5つの授業で取り入れた教材や指導方法等について協議を行い、成果と課題を確認しました。保護者の皆様には、1～4年生の下校時間が早くなるなどの変則的な対応についてご理解とご協力をいただき、たいへんありがとうございました。

時間	授業公開等	授業参観の態勢・児童の下校時間
朝行事	読書タイム・職員打合せ	
第1校時		
第2校時	4年 英語活動 (授業者：猿口和口=EAT)	◇ 授業のある先生は10～15分の授業参観
25分休み		
第3校時		
第4校時	3年 英語活動 (授業者：小口貴口)	◇ 授業のある先生は10～15分の授業参観
給食指導 昼休み 清掃指導		※ 1～3年生＝給食～昼休み～簡単清掃～下校 ※ 4年生＝給食～昼休み～簡単清掃 ※ 5・6年生＝給食～昼休み～簡単清掃
ステップアップタイム (モジュール授業)	4年 英語活動 (授業者：星口智口美)	◇ 5・6年生＝ステップアップタイムは自習 ◇ 全員が授業参観 ※ 4年生＝下校
第5校時	5年 英語 (授業者：八口暁口)	◇ 全員が授業参観 ※ 5年生＝下校
第6校時	6年 英語 (授業者：猿口和口=EAT)	◇ 全員が授業参観 ※ 6年生＝下校
放課後	授業研究会	◇ 全員が参加



【4年担任の英語活動授業】



【5年担任の“英語科”授



【EATの6年“英語科”示範授業】

3年地域学習「白瀧姫物語」

＜紙芝居＞を観て＜からくり人形＞を体験

11月1日(水)の10:30から11:30に、3年生の地域学習の一環として、桐生からくり人形師の佐口貞口さんを講師に招いて、『白瀧姫物語』等の学習を行いました。いろいろな“からくり人形(白瀧姫、ぐんまちゃん、馬)”を、実際に触って動かすことができたので、子どもたちは楽しそうに学習していました。講師の佐藤さんは、3年生の子どもらしい熱心な学習態度をたいへん褒めていました。



【白瀧神社の説明】



【紙芝居『白瀧姫物語』】



【白瀧姫のからくり人形】



【白瀧姫を動かしてみました】



【馬を動かしてみました】



【ぐんまちゃんのからくり人形】

桐生に伝わる「白瀧姫伝説」とは…

今から1200年くらい前の平安時代の初めに、上野国山田郡(現在の桐生市川内町)に住んでいた農家の青年が、掃除係の宮仕えを命じられて宮中へ出向きました。そこで青年は白瀧姫に出会い、恋をしてしまいます。しかし、自分は東国の上野国から京に上ってきた身分の低い農民…。青年は、叶わぬ恋とは知りながらも、その気持ちを和歌に詠むようになりました。

一方、白瀧姫は田舎者の青年を、最初はまったく相手にしていませんでしたが、時が経つにつれて、和歌の才能がある青年にだんだんと惹かれていくようになります。

やがて青年は、帝の御前で和歌を披露する機会に恵まれ、その才能を認められた青年は帝の勅許を得て、白瀧姫を故郷の自分の村に連れて帰れることになりました。

そして、桐生に嫁いできた白瀧姫は、自分が身に付けていた絹織物を織る機織りの技術を村の人々に伝えました。やがて、その技術は村のみならず桐生中にどんどん広まり、「桐生織」が隆盛するきっかけになったといわれています。

これが、私たちの桐生に、絹織物の高い機織り技術を伝えたといわれている京の都のお姫様の話: <白瀧姫伝説>です。

ちなみに、白瀧姫が桐生に嫁いできた時に、青年と一緒に住むことになった村にそびえる山を見て、「あの山は、京の小倉山にととてもよく似ている」と言ったことから、この村は「仁田山(似た山)」と呼ばれるようになり、この村の近くにある峠も「小倉峠」と呼ばれるようになったということです。

また、桐生の特産品となった絹織物(桐生織)は、江戸時代前期までは「仁田山織」と呼ばれていたそうです。

白瀧姫が亡くなると、仁田山(川内町)の人々は、白瀧姫の御恩に報いるために、天から降ってきた伝えられている石(降臨石)の下にその亡骸を手厚く埋葬して、白瀧姫を「機織神」として大切に祀るようになりました。

川内町にある白瀧神社の境内には、いまでもその「降臨石」が御神体として祀られています。